

Bar Escae presents

Oriental Dance Night Vol.1: Troubadou's Journey

第1部 (19:30~19:50)

1. Troubadou's Journey (振付: Kaeshi Chai)

吟遊詩人の旅が始まります。旅の始まりには祝福の舞を。Veil (ベール) を使って踊ります。

2. Al Aih Biysalouni (振付: Mayady)

エジプトで最も有名な歌手のうちの一人 Warda (ワルダ/アラビア語で「バラの花」の意) が、別れても好きな人に思いを馳せている女の心情を歌った名曲です。「あなたは私を捨ててどこかに行ってしまったけれど。いいの。それでもいいの。私はあなたを愛し続けるから。思い出の中のあなただけで私には充分だから……。」歌詞の内容に比べて明るい曲調に驚かれるのではないかと思います。

3. Maqam Nahawand (振付: Yousry)

数ある Maqam (マカーム) の中でも西洋音階に耳慣れた我々日本人にも親しみやすい音階を使う Nahawand (ニハーワンド) で踊ります。和声的短音階 (ハーモニック・マイナー・スケール) で上昇し、自然的短音階 (ナチュラル・マイナー・スケール…音楽の授業で習う普通の短音階) で下降する音階とされています。



“アラブ音楽の大きな特徴に、アラブ音楽特有の旋法体系「マカーム」がある。8音から成る音階のような音列の組み合わせで、西洋音楽の短調や長調などのように曲の雰囲気を決める重要な要素。アラブ音階には西洋音階の半音のさらに半音にあたる中立音程があるため、マカームの種類は300を超えると言われる。作曲者は、ひとつの曲の中でいくつものマカームを行き来してメロディを構成し、幸福感、郷愁感、悲しみ、栄光、忠誠…など、さまざまな雰囲気を作り出す。マカームには長い歴史があり、時代によって変化を続けてきているが、宇宙や占星術などとの関連もあるといわれている。”

第2部 (20:30~20:50)

1. Madonna Nera (振付: KIKI Alma)

黒いマリア・マグダラ。マグダラのマリア信仰の讃歌です。マグダラのマリアは新約聖書に登場する聖女。罪深くもあり、美しくもあるいろんな解釈の存在する女性です。改悛（深く悔いる事）のモチーフです。私にとってマグダラのマリアはとても興味深く強く心を惹かれる女性。少しでも感覚を共有する事が出来ればと思います。

2. Drum Solo (振付: Erman Olga)

ドラムのリズムだけで構成された曲で踊ります。ダンスからメロディを感じていただければ嬉しいです。

3. Setrak (振付: Kaeshi Chai)

本日の吟遊詩人の旅も最後になりました。旅の終りは Zill (ジル/サガット/フィンガー・シンバル) を使って踊ります。

本日は「Bar Escae presents Oriental Dance Night Vol.1: Troubadou's Journy」へ足をお運びくださりありがとうございました。来月9月5日(土)のショーでは剣(シミター/ソード)を使用するダンスを予定しています。また来月もお会い出来る事を楽しみにしております。

2015年8月1日(土) Nurah (ヌーラ)

引用・参考文献:

“アラブ音楽・リズム・楽器”. ベリーダンス用語集. ベリーダンス・ジャパン編集部編. イカロス出版, 2013, p.103.